

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2024年 第52週（12月23日～12月29日）～ 2025年 第1週（12月30日～1月5日）

## 今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

### 定点把握感染症

#### 「インフルエンザ」高水準で流行続く

2024年第52週と2025年第1週をあわせて報告する。今週の報告数は、年末年始休暇による診療実日数の減少を考慮する必要がある。

第52週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,784例であり、前週比4.2%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.90、1.58、1.09、0.48、0.44である。

第1週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は275例であり、前週比84.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱・水痘・手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ0.70、0.31、0.24、0.04である。

第52週のインフルエンザは45%増の20,211例で、定点あたり報告数は66.27であった。第1週は62%減の7,658例で、定点あたり報告数は25.36である。大阪市西部122.33、大阪市北部46.84、南河内32.08、豊能30.53、泉州25.15であった。第52週は、現行の集計方法になってから、最高の報告数となった。

第52週の新型コロナウイルス感染症は28%増の1,120例で、定点あたり報告数は3.67であった。第1週は30%減の718例で、定点あたり報告数は2.38である。大阪市西部7.67、南河内3.50、泉州3.18、豊能2.67、堺市2.62であった。

基幹定点把握疾患のマイコプラズマ肺炎は、第52週が前週より17例減の12例で、第1週は7例である。

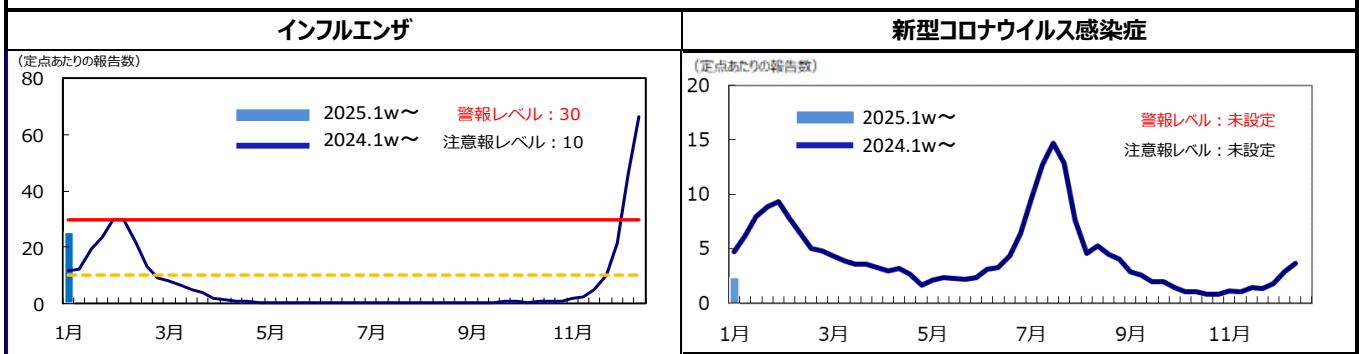


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第1週12月30日～1月5日）

第1週の順位	第52週の順位	感染症	2025年 第1週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第1週の 定点あたり 報告数	2025年第1週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	0.70	86%減	2.48	20歳以上_25%
2	3	RSウイルス感染症	0.31	72%減	0.10	1歳未満_42%
3	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.24	85%減	1.53	8歳,20歳以上_13%
4	5	咽頭結膜熱	0.04	91%減	0.65	10-14歳_25%
4	7	水痘	0.04	86%減	0.15	7歳_43%
4	6	手足口病	0.04	89%減	0.34	5歳_43%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	25.36	62%減	11.67	20歳以上_63%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	2.38	36%減	4.72	50-59歳_15%

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

## 第1週のコメント

～侵襲性髄膜炎菌感染症～ 大阪府の2024年（速報値）の累積報告数（11例）は、過去10年で最も多かった

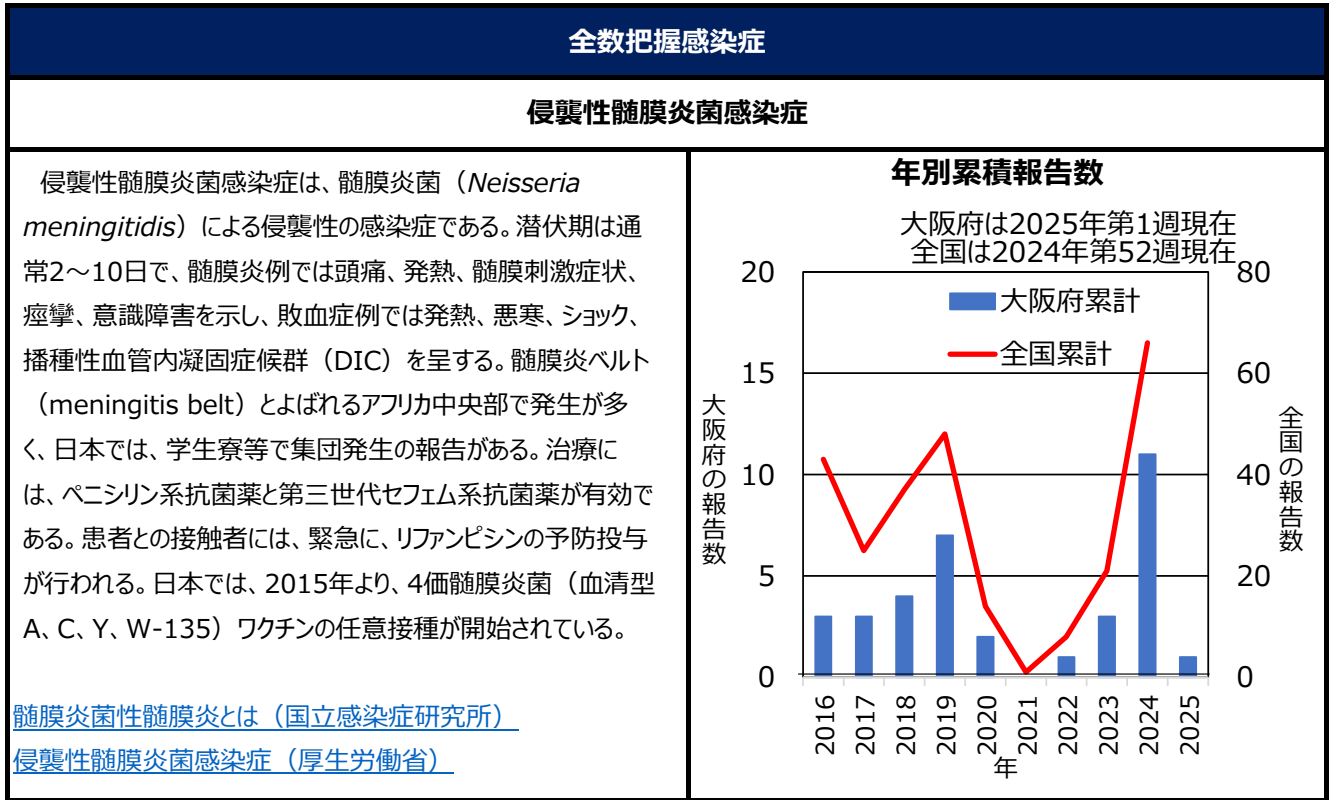


表 2. 大阪府全数報告数（2025年 第1週12月30日～1月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	1
5類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1					1				1
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1							1	2
	梅毒	1								1	1
	百日咳	3			1		1			1	3
結核 (2024年11月分)	結核 新登録患者数：105名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 42名) (府内累積報告数 1,043名、内 肺・喀痰塗抹陽性 395名)										

(2025年1月7日 集計分)